



継続こそ・力なり!!
政策提言から実現へ!!

未来の八潮・子どものために…

和宏のほっとかない!! NEWS

号外版

編集・発行

あさだ和宏を育てる会
会長 落合 利治
編集長 中井 欣也

〒340-0821 八潮市伊勢野306
FAX 048(996)4361

●発行日 平成25年8月●

討議資料

平成25年度 八潮市議会 第3回定例議会が開催されました。

通常9月に開催される9月議会が、9月1日に告示となる八潮市議会議員選挙のため、7月24日～8月12日まで前倒しで開催されました。

今議会は、平成25年度一般会計・特別会計予算の補正予算案の上げがありました。また、平成24年度の決算に関する「認定」もあり、上げられた議案がすべて原案どおりに可決・承認となりました。

平成24年度一般会計・特別会計の決算に関しては、私も所属している委員会（総務・文教常任委員会）の中で、各事業に関して、「事業の成果はどうだったのか」「課題は何か」「今後の方向性」を中心に質疑をさせていただきました。

決算の認定に関しては、予算の認定と同等に重要性が高く、決算時に、市が実施している事業の精査（費用対効果や、今後の方針等）をしっかりと実施することによって、翌年度以降の市が行う施策に関して、チェックができ、費用対効果が高まったり、市民の皆様が本来求めているサービスへと方針転換が図られることがあります。

本市は、全国でも数少ない人口が増加傾向にある自治体です。

当然の話ですが、人口が増加すればその分、市民の皆様から、多種多様な意見や要望等が寄せられます。そのような市民要望に対応するためにも、これからは今まで以上に効率的な行政経営が求められておりますので、この点に関して、各議員、また議会としてしっかりと監視・提案をする必要があると私は考えます。

八潮市議会議員定数が「22名」→「21名」に。。。 。。。議員数が奇数になるのは、56年ぶり。。。

さて、その八潮市議会ですが、今回の改選から定数が「21名」（1名減）となりました。

私は、今議会にも、賛成者の一人として「2名」の議員定数削減案を提出していましたが、結果的には「1名減」の結果には異論はありませんでした。しかし、問題は「1名減」という「理論的根拠」は何かという点です。この件に関して提案者（服部議員）に質問をさせていただきましたが、「根拠はない」との回答でした。

なぜ、私が数字に拘るのかというと、議員の定数が「奇数」になった場合、本会議での議案採決の際に内容によって「可否同数」という結果になる可能性があります。その際、本来、採決には入らない「議長」が「可否」を表明することになり、結果的に議長一人の考え方によって、可否が変わってしまうことがあります。

このことは、議会運営上、決して好ましい状況でないと思いますし、八潮市議会の歴史を振り返ってみても、定数が「奇数」となったのは、昭和32年以来、56年ぶりということになります。

提案者の方が、どんな考え方で「1名減」を提案されたのかは知りませんが、本市議会の歴史、数字の意味を、しっかり理解されていたのかは定かではありません。

ともかく、定数21名で、9月1日から市議会議員選挙がスタートします。

また、八潮市政のリーダーを決める「市長選挙」も同時に行われます。さらに、今回は、埼玉県議会議員（補欠）選挙も今週の金曜日に行われます。

9月7日（土）の夜8時まで、選挙戦が繰り広げられます。

市民の皆様には、大変ご迷惑をお掛けすることがありますが、限られた選挙期間ということでご理解・ご協力をお願いします。

市民の皆さん、必ず投票に行きましょう！！

皆さんの中には、「政治は無関心・・・」と思われる方もいるかもしれませんが、しかし、皆さんの生活の中で、「政治は無関係」という訳にはいかないと思います。

これからの八潮のためにも、まずは投票に行き、自らの意思表示をすることが「政治参画」への一歩だと思えます。

「政策提言から実現へ」～継続こそ・力なり～

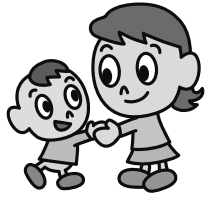
八潮市議会議員 あさだ和宏

これから取り組みたいこと ～5つの政策～

教育・子育て環境の充実

八潮市で子どもを産み育てたいと思う、子育て・教育環境を構築しなければなりません。安心して子どもが預けられるよう保育所の整備、地域の子どもの居場所・児童館の整備。遊びや体験活動を通しての仲間作り、異年齢・世代間交流の場としても必要だと思えます。

また教育においても栄養バランスのとれた学校給食を基に、独自性と差別化が求められています。近隣市より充実した教育サービスを提供することにより、現役世代人口を確保し（税収の確保）教育・子育てのための財源を確保できるものと考えます。



医療・福祉の充実

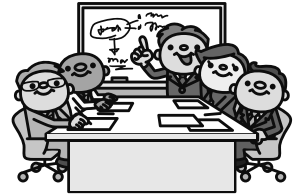
限られた財源の中、継続的に福祉・医療をいかに充実させるのは大きな問題です。社会福祉協議会など関係団体への支援・関係分野との連携を強化を図りながら、人にやさしい地域づくりに努めます。また、誰もが健やかに暮らせるよう保健医療体制の整備拡充を図ります。



行財政改革・市民参画

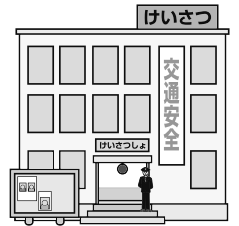
行政は“サービス業”たる自覚を持ち、「コスト意識」「スピード感」「安心感」を高め、さらなる市民サービスの向上に努めます。

議会は「開かれた議会」を目指し、情報公開を積極的に進め、「議員・議会はどうあるべきか」を議論し、市民の負託に応えられるよう「議会基本条例」の制定を目指します。



安心・安全・環境のまちづくり

みんなの街「やしお」が、もっと元気になるために、市民の皆さんの生活環境から見直す必要があると考えます。東日本大震災等の災害を踏まえ、市内各地域の実情をしっかりと把握し、「自助・共助・公助」で担う、まちづくりを目指します。今後のごみ減量・資源化などを推進し、循環型社会の仕組みをつくります。さらに市民要望の多い警察署の誘致、各交番勤務の警察官の充実を目指します。



地域経済の活性化

地域経済を活性化する政策を推進するために、市内商工業者への融資など、継続的な経営支援が必要と考えます。自治体の仕事の一つでもあるガバナンス（統治）は、「行政」「市場活力」「市民活動」の三者のバランスが大切であり、それを基に活気溢れる地域産業づくりに努めます。

さらに、本市の安心・安全な農産物のPR等、販路拡大を進め、持続可能な「農業」を目指します。



最後に・・・

将来を予測することは困難ですが、ある程度の予見をしなければ、5つの政策は実現できません。これからの議員は、地域の「御用聞き」だけでなく、地域を課題を解決するために知恵を絞り、政策へと転換する能力が必要であり、政策立案における専門家でなければならないと私は考えます。

「八潮」で生まれ、幼少時代・青春時代を過ごした「八潮」そして現在も住み続けている「八潮」私を育てていただいた、故郷「八潮」の将来のためにも、責任を持ちたい・・・。
そんな熱い思いで「5つの政策」を提言いたします。



上田清司 埼玉県知事と、本市の課題等について会談。（6月10日・知事室にて）